

令和6年度 第1回 鈴鹿市地域公共交通会議 議事要点録

日 時	令和6年6月4日（火）14:00～16:00	
場 所	鈴鹿市役所本庁舎 12階 1204会議室	
出 席 者	交通ジャーナリスト 中部大学工学部都市建設工学科教授 三重交通株式会社バス営業部部長（乗合） 三重交通株式会社中勢営業所長 三重交通労働組合中勢支部支部長 鈴鹿市旅客自動車協会鈴乃会会長 一般社団法人三重県タクシー協会専務理事 近畿日本鉄道株式会社名古屋統括部運輸部営業課課長 伊勢鉄道株式会社取締役 中部運輸局三重運輸支局首席運輸企画専門官 三重県地域連携・交通部交通政策課主事 三重県鈴鹿建設事務所保全課長 鈴鹿警察署交通第一課課長 鈴鹿市副市長 鈴鹿市自治会連合会 会長 鈴鹿市老人クラブ連合会 会長 鈴鹿市老人クラブ連合会 女性部 鈴鹿市生活学校 会長 鈴鹿商工会議所 副会頭 鈴鹿市社会福祉協議会 会長	鈴木 文彦（副会長） 磯部 友彦（副会長） 小瀬古 恵則 川端 邦裕 高橋 克典 辻 泰生 景山 和【欠席】 山本 淳 石野 雅美（監査委員） 石野 栄一 古市 大也（代理） 松本 一彦（代理） 木村 智晴 内藤 洋（会長） 水野 克則 伊藤 壽一 山口 小夜子【欠席】 樋口 よしゑ 田中 久司 亀井 秀樹（監査委員）

1 あいさつ

【事務局】

- ・会議は公開とし、議事要点録を後日市HPへ公開してよいか。（－ 異議なし －）

【会長】

- ・委員20名中18名の出席があり、会議成立を宣言する。
- ・「鈴鹿市地域公共交通会議傍聴要領」に基づき、傍聴人の入室を許可する。

2 協議事項

(1) <第1号議案> 令和5年度鈴鹿市地域公共交通会議事業報告(案)

(2) <第2号議案> 令和5年度鈴鹿市地域公共交通会議決算(案)

【事務局】

- ・議案に基づき、説明。

【委員】

- ・第1号議案 施策2-2について、進捗状況と支出の内訳を教えてください。

【事務局】

- ・令和5年度に実証運行事業の実施地域を募集し、選定させていただいた。
- ・決算額の内訳としては、コンサルタントへの検討業務委託費となる。

【委員】

- ・アンケート調査の結果や地域の選定過程について、説明いただきたい。

【事務局】

- ・報告事項にて説明予定の資料2-1が関連する内容であるため、後ほど改めて説明させていただきます。

【会長】

- ・出席委員の4分の3以上の賛成があり、会議規程第8条第4項の規定に基づき、第1号議案、第2号議案は議決。

(3) <第3号議案> 令和6年度鈴鹿市地域公共交通会議事業計画(案)

(4) <第4号議案> 令和6年度鈴鹿市地域公共交通会議予算(案)

【事務局】

- ・議案に基づき、説明。

【会長】

- ・出席委員の4分の3以上の賛成があり、会議規程第8条第4項の規定に基づき、第3号議案、第4号議案は議決。

3 報告事項

(1) 鈴鹿市地域公共交通計画に位置付けた施策の令和6年度の実施内容について

【事務局】

- ・資料1に基づき説明。

【委員】

- ・ デマンド交通の導入について、具体的なタイムテーブルを共有いただきたい。
- ・ 買い物難民や免許返納者が増えているため、積極的に地域の意見を反映して取組を進めていただきたい。

【事務局】

- ・ 施策の実施のタイミングについては確定していないが、いつでも実施できるように交通会議を通じて準備をしている。
- ・ ご指摘の通り、地域によって通院や買い物など不便に感じている部分は大きく異なる。
- ・ 交通会議を活用しながら、地域の人々と作り上げていかななくてはいけない。

【副会長】

- ・ 全国的に交通の担い手不足が問題となっている。
- ・ そのため、実施したい交通施策が実現できなくなってきている。
- ・ 今後は運転手や整備士等担い手の確保の支援が重要な要素となる点を踏まえ、施策の展開を進めていただきたい。

(2) デマンド型交通実証運行事業の現況について

【事務局】

- ・ 資料 2-1、2-2、2-3 に基づき説明。

【委員】

- ・ 本実験のデマンド交通については、C-BUS との連携を想定していると思うが、実証事業実施地域へのアンケート調査においては、目的地として地域外のハンターのサンシや中央病院などについても、回答が多ければ停留所に反映する等、検討いただきたい。
- ・ デマンド交通の早期実現を望む。

【事務局】

- ・ アンケート調査票については、自由記述欄を設けているため、選択肢にない移動に関する意見は当該欄に記載いただきたい。

【委員】

- ・ アンケートの調査対象として全世帯とあるが、利用者は高齢者が多くなると考えている。利用者数は地域人口の何%程度を見込んでいるのか。
- ・ 需要については地区によっても大きく異なるため、地域の自治会へ出向いて、実際の需要がどの程度か確認した上で実施する必要がある。

- ・机上の検討だけでなく、地域の声を反映すべく地区協議会への調査票回収依頼等は済んでいるか。

【事務局】

- ・他市の事例を踏まえ、利用者数については実証事業実施地域のアンケート回答数の40%程度を見込んでいる。
- ・地区協議会との協議は進めており、調査票の回収についても依頼済みである。

【委員】

- ・他の自治体の事例を見て検討はしているか。
- ・県内事例などを参考してはどうか。
- ・地域の自治会の意見を反映して実現してほしい。

【事務局】

- ・他の事例についても、コンサルタントへの協力を踏まえて参考としている。
- ・システムについても、今回依頼したコンサルタント会社が開発したAI予約配車システムを活用予定である。

【委員】

- ・AI配車システムはタクシー車両を想定したシステムか。
- ・実証実験期間中は無償で実施してはどうか。

【事務局】

- ・AIオンデマンドシステムは特に車両のサイズや定員は自由に設定可能である。
- ・本実験についてはセダン型の車両で実施を想定している。
- ・公共交通という側面から、本実証実験は有償での実施となる。

【会長】

- ・公共交通は、今ある公共交通を存続していく観点から無償での実証運行は困難である。
- ・実証事業を実施するにあたって、良い結果を出すべきではないかと心配されるのももっともだと思う。

【委員】

- ・将来的には今回実施する地区以外の地域へも展開いただけるか。
- ・実験結果を踏まえ、良かった点を次に生かして広く市民に情報発信いただきたい。

【委員】

- ・実証実験期間中は乗車率や利用率といった経過報告はされるのか。
- ・成功させて、他の地域にも波及してほしい。
- ・路線バスへの乗り継ぎは利用者の負担に繋がるので、交通の便の良い場所に行けるシステムを検討すべきである。

【事務局】

- ・実証実験の利用実績等は報告させていただく。

(3) 三重県地域公共交通計画、R6 年度公共交通関係予算について

【三重県】

- ・資料 3 に基づき説明。

【委員】

- ・今回説明された支援事業について、どのような市町村が対象となるか。

【三重県】

- ・個別の具体的な取組については、詳細を確認した上で、対象となるかを判断する。

【副会長】

- ・資料 3 2 ページ目に記載の広域交通ネットワークの図は、具体的にどういった交通手段を意味しているのか。

【三重県】

- ・路線バスや地域鉄道、JR、近鉄等、交通機関を網羅的に示している。

【副会長】

- ・事務局への質問として、鈴鹿市としては県の計画とどのように連携していくのか。

【事務局】

- ・昨年度、デマンド交通の運行に関する補助金支援を受けており、本年度も補助事業の申請をしていきたいと考えている。
- ・運転士の確保は自治体単位での対策は困難であるため、三重県との協力を依頼したい。

4 その他

【委員】

- ・鈴木副会長にも協力いただき、三重交通 80 周年を記念したバス感謝祭を 5 月に中勢営業所で開催し、多くの子どもを含む 2,800 名ほどに来場いただいた。
- ・公式キャラクターが決定し、県外のお客様にも来ていただけるよう発信していきたい。

【委員】

- ・F1 日本グランプリでは、白子駅だけでなく、平田町駅の利用も案内することができ、通訳ボランティアも活用してスムーズに進行できた。
- ・名古屋からのお客様が、津駅で降車し、伊勢鉄道に乗り換える方が増えて、白子駅の混雑が緩和された。
- ・バリアフリーや車両の老朽化を踏まえ、運賃の値上げを行ったが、コロナ前と比較すると収支は 1 割程度戻らない状況である。
- ・デマンド交通については、菰野町、川越町、志摩市などの交通会議に参加している。
- ・志摩市では、シェアサイクルを導入している。
- ・電動自転車を、乗り捨て自由としてデマンド交通の補完として導入していくのも一案かと思う。
- ・鈴鹿市管内の無人駅をデマンドの待合所として活用すること等協力可能である。

【委員】

- ・R5 年度業績は、コロナ渦以前と比べて、輸送量は 93%、運輸収入は 97% で頭打ち感がある。
- ・F1 輸送は、最寄駅の鈴鹿サーキット稲生駅は通常 1 日 200 人未満の利用のところ、F1 期間は 1 日 2 万人、全体で 6 万人の利用があった。
- ・安全設備では、車両の老朽化により更新を控えているが、20 年前の 3 倍の車両価格となっており厳しい状況にある。

【委員】

- ・交通業界の人材確保について、県内の高校を訪問して、バス・タクシーだけでなく、トラックのドライバーについても高校生に PR をしている。
- ・交通空白地域にデマンドを入れていただくのはありがたいことで、使い勝手を良くしてほしいという意見があったが、良くするためには担い手不足を解消していかないと実現できないので、引き続き連携・協力していきたい。

【委員】

- ・知らない情報ばかりだったので、頂戴した情報を共有していきたい。

【副会長】

- ・F1 開催時におけるバスの輸送を実際に見学していたが、帰りの時間帯における三重交通のノウハウは素晴らしいと感じた。

- ・そうした素晴らしいノウハウをお持ちの交通事業者がいるので、十分に活用いただくとともに、共存していかないといけない。
- ・人手は急速に増えていくものではないので、いかに上手に人材を配置していくのか、実証実験をしながら、編み出さないといけない。

【副会長】

- ・スクールバスは文部科学省、病院送迎は厚生労働省といった形で管轄が異なるが、国土交通省のみならず、省庁の垣根を越えて協力いただきたい。

【事務局】

- ・本会議の委員の任期は2年間であり、令和6年6月9日までとなっている。
- ・今後、事務局より任期更新に向けて委嘱状を送付予定である。

【会長】

- ・議事進行への協力や貴重なご意見を賜り感謝申し上げます。

【事務局】

- ・長時間にわたり活発な議論をいただき感謝申し上げます。
- ・本日の協議を踏まえて、施策の取組内容等を整理させていただき、議事要点録と併せて委員各位に共有させていただく。
- ・次回は鈴鹿市地域公共交通会議分科会を6月25日に開催予定である。

以上、16時4分終了。